OIAS-SR 10月 RFID演習 RFIDとPythonを用いた バックエンドシステムの構築

岡山大学大学院環境生命自然科学研究科 情報セキュリティ工学研究室

奥山諒

授業構成

- ➤RFID技術の基礎説明
- ▶RFIDタグとリーダーの操作
- ▶Pythonを用いたRFIDデータの取得と処理
- ▶バックエンドシステムの構築

授業構成

- ➤RFID技術の基礎説明
- ▶RFIDタグとリーダーの操作
- ▶Pythonを用いたRFIDデータの取得と処理
- ▶バックエンドシステムの構築

RFID (Radio Frequency Identification)

- 電波や無線通信を利用して物体の識別や追跡を行う技術
- リーダーでタグを読み取り、PCなどにデータを保存

RFIDリーダーの仕組み



引用:https://www.e-garde.co.jp/wpcontent/uploads/2024/06/leaderworks.png

・実際の活用例

- ユニクロでの無人会計システム
- ICOCA・SUICA、電子マネー



引用:https://cdn-ak.f.sthatena.com/images/fotolife/k/karaag e/20220710/20220710183825.jpg



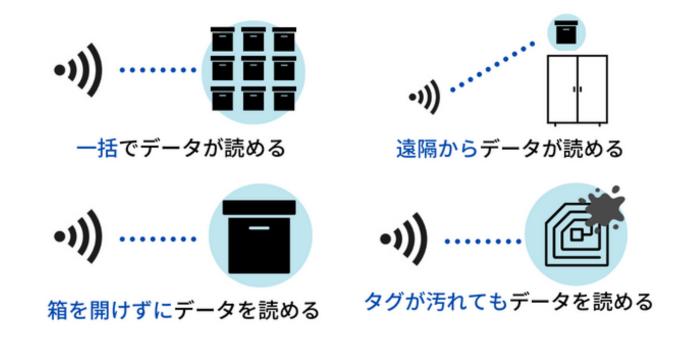
引用:https://www.ryutsuu.biz/images/ 2018/10/20181017unqlo-1.jpg

・RFIDの4つのタイプ

通信帯	LF帯	HF帯	UHF帯	マイクロ波帯	
周波数	~135KHz	13.56MHz	860~ 960MHz	2.45GHz	
通信範囲	~10cm	~30cm	~20m	~3m	
用途例	自動車の スマートキー など	交通系IC カード	アパレルタグ や製品の持出 管理など	(旧周波数帯)	

今回の演習ではUHF帯を使用

・RFIDのメリット



引用:https://www.smartmat.io/hs-fs/hubfs/as-torfid03.png?width=680&height=346&name=as-torfid03.png

・バーコードとの比較

種類	データ 書き換え	同時 読み込み	読み取り 距離	遮蔽物や 汚れの影響	保有情報量	コスト
バーコード	不可	不可	~数10cm	見えている 必要があり 汚れにも弱い	バーコード 20文字程度 QRコード 7,089字	RFIDに 比べ安い
RFID	可能	可能	~数m	遮蔽物の 影響が少なく 汚れに強い	数1,000字	バーコードに 比べ高い (大ロットで安くて も約10円前後)

引用:https://www.necsolutioninnovators.co.jp/sp/contents/co lumn/img/20220128/img_main2.png

RFID

- ・電波で物体の識別や追跡
- 一度に複数識別
- タグを取り出す必要がなく、効率的
- データをPCやインターネット上のDBなどに保存可能



今回の目標

リーダの操作、タグの検知

Pythonを用いてリーダーの操作、データの取得 バックエンドシステムでデータの確認

授業構成

- ➤RFID技術の基礎説明
- ▶RFIDタグとリーダーの操作
- ▶Pythonを用いたRFIDデータの取得と処理
- ▶バックエンドシステムの構築

RFIDタグとリーダーの操作

実践内容

- ✓ リーダとタグ、ソフトの紹介
- ✓ 接続方法
 - ➤ USB接続
 - ➤ Wi-Fi接続
 - ➤ Bluetooth接続
- ✓ コマンドや読み取り方法
- ✓ 読み取ってデータを表示、連続読み取り
- ✓ タグを箱の中に隠し、読み取れるかデモ

リーダとタグ、ソフトの紹介





接続方法

USB接続

- 今回のメインの接続
- COMポートで接続

• Wi-Fi接続

- TCP/IPを通じて通信
- リーダーはクライアントとして接続

Bluetooth接続

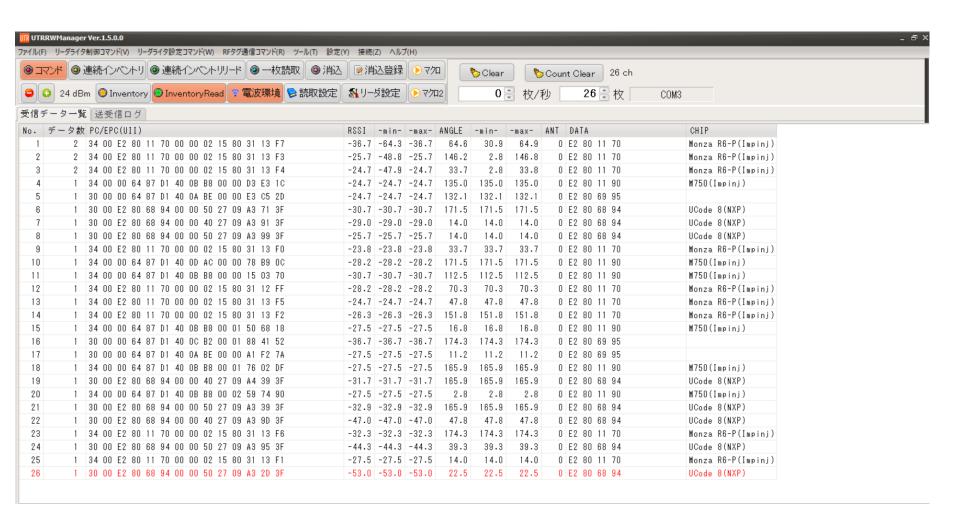
- ペアリングを行い、COMポートで接続
- 物理的な障害がなく使いやすい

コマンドや読み取り方法

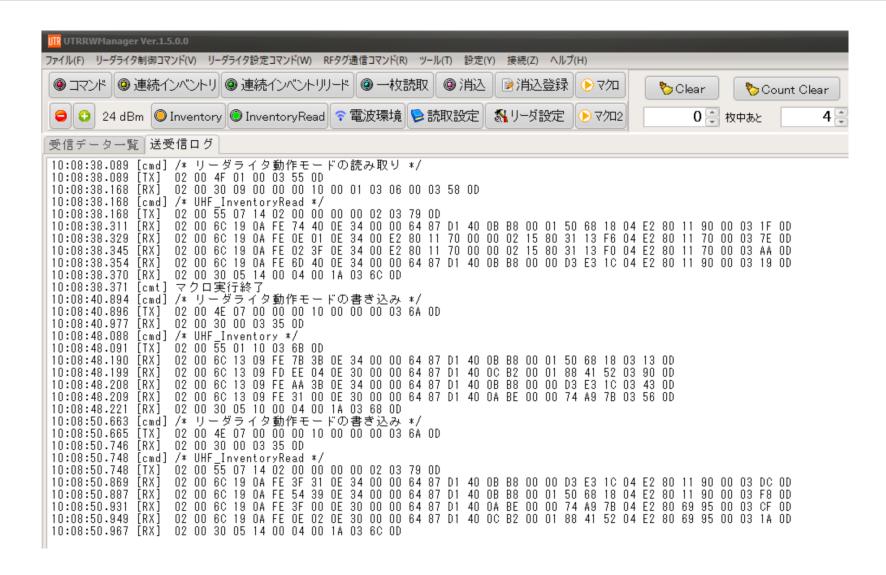


- ・コマンド
- 連続インベントリ
- 連続インベントリリード
- ・一枚読み取り
- ・消込
- ・マクロ
- InventoryRead

データの表示、連続読み取り



送受信ログ



読み取りデモ

箱の中にいれたタグを読み取ってみよう 金属や物の間など、タグの性質を体感しよう

授業構成

- ➤RFID技術の基礎説明
- ▶RFIDタグとリーダーの操作
- ▶Pythonを用いたRFIDデータの取得と処理
- ▶バックエンドシステムの構築

Pythonを用いたデータの取得

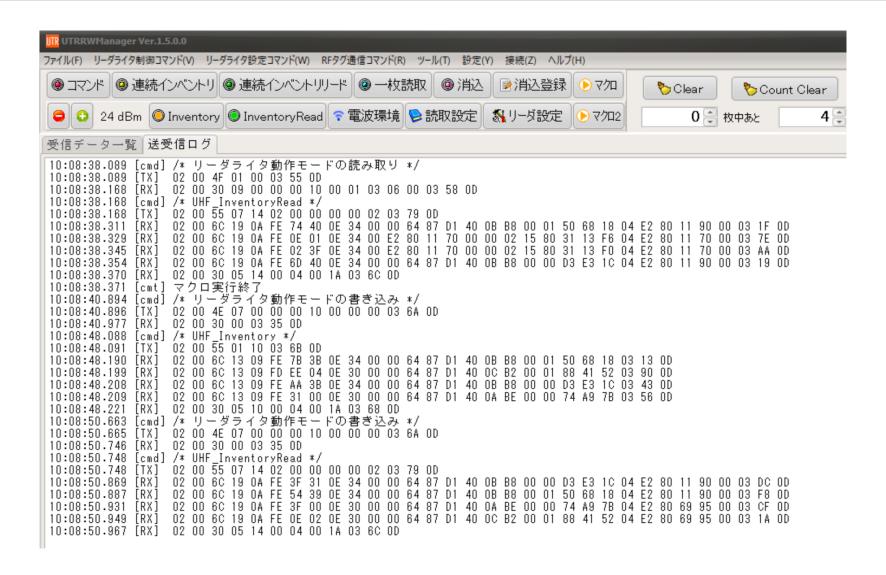
ソフトで行っていたこと

- COMポートで接続
- ・ 読み取りなどの命令(バイナリコマンド)
- ・ 出力を表示

・Pythonを用いた実行

- 上3つの内容をコードで行うことができる
- クリックしなくても時間設定や無限ループで行える
- データベースに保存可能
- ほかのサービスを増やすことができる

送受信ログ



送受信ログ

InventoryReadの送受信ログ

```
10:10:56.801 [cmd] /* UHF_InventoryRead */
10:10:56.804 [TX] 02 00 55 07 14 02 00 00 00 00 02 03 79 0D
10:10:56.920 [RX] 02 00 6C 19 0A FE AA 14 0E 34 00 00 64 87 D1
40 0B B8 00 01 50 68 18 04 E2 80 11 90 00 03 29 0D
10:10:56.937 [RX] 02 00 30 05 14 00 01 00 1A 03 69 0D
```

TX(Transmit)

➤ リーダーが送信したコマンド
RX(Receive)

➤ リーダーが受信したデータ

Pythonを用いたデータの取得

```
import serial
# シリアルポートを開く
ser = serial.Serial(
   port='COM3', # 使用しているポート名に変更 (WindowsではCOMポート、Linux/macOSでは/dev/ttyUSBxなど)
   baudrate=115200, # ボーレート
   timeout=1 # タイムアウト(必要に応じて調整)
# バイナリデータの送受信
binary_data = b'\x02\x00\x55\x07\x14\x02\x00\x00\x00\x00\x00\x00\x02\x03\x79\x0D' # ログに対応するデータ
# データを送信
ser.write(binary data)
# データを受信(32バイトを読み取る場合)
response 3 = ser.read(32) # 32バイト分のデータを受信
# 受信データを16進数形式で連続表示(空白なし)
hex string = response 3.hex() # 16進数の文字列に変換
print("Received data:", hex string)
# ポートを閉じる
ser.close()
```

Pythonを用いたデータの取得

Pythonでの実行結果

C:\forall C:\forall Users\forall ryou2\forall Documents\forall RFID_python > python > python a.py Received data:

02006c190aff1b2f0e3400006487d1400bb8000150681804e280 11900003b60d

ソフトでの読み取り結果

10:10:56.801 [cmd] /* UHF_InventoryRead */

10:10:56.804 [TX] 02 00 55 07 14 02 00 00 00 00 02 03 79 0D

10:10:56.920 [RX] 02 00 6C 19 0A FE AA 14 0E 34 00 00 64 87 D1

40 0B B8 00 01 50 68 18 04 E2 80 11 90 00 03 29 0D

10:10:56.937 [RX] 02 00 30 05 14 00 01 00 1A 03 69 0D

様々なバイナリデータ

InventoryRead以外にもほかのコマンドを試してみよう! コードを改良して読み取りの無限ループをしてみよう! 複数のタグを表示できるようにしてみよう!

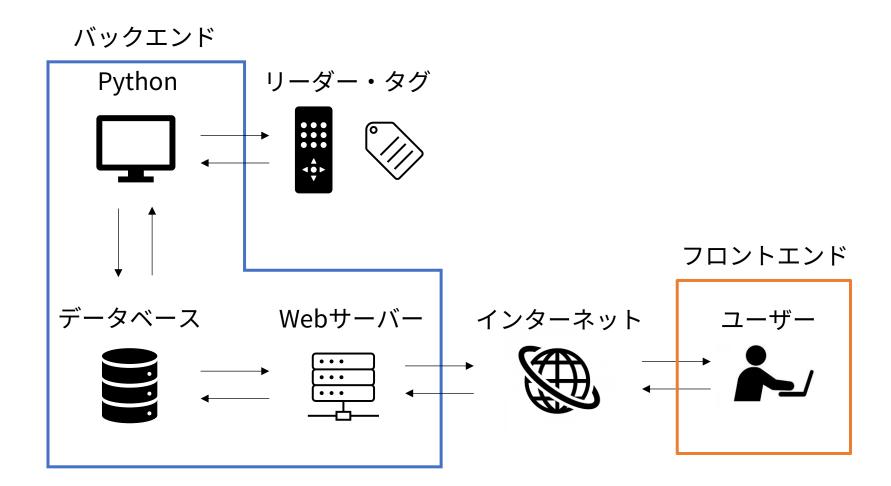
ヒント 欲しい部分の出力は64文字で、タグのIDは22番目から46番 目に書かれている

10:10:56.920 [RX] 02 00 6C 19 0A FE AA 14 0E 34 00 00 64 87 D1 40 0B B8 00 01 50 68 18 04 E2 80 11 90 00 03 29 0D

授業構成

- ➤RFID技術の基礎説明
- ▶RFIDタグとリーダーの操作
- ▶Pythonを用いたRFIDデータの取得と処理
- ▶バックエンドシステムの構築

システムの概要



システムの概要

倉庫管理システム

ID	exsistence	
006487d1400abe000074a97b	True	
006487d1400cb20001884152	False	
006487d1400bb80000d3e31c	True	
006487d1400bb800017602df	False	

システム概要

- バックエンド
 - タグの読み取り
 - タグの情報をデータベースに保存
 - ・貸し出し返却の表示
- ・フロントエンド
 - データベースの表示
 - True,Falseの表示

RFID_system

RFID.py

```
print("READ")
RFIDread(ser)
rcv_data_list = serialReadLines(ser)
for rcv_data in rcv_data_list:
    check_str = df[df["ID"].isin([rcv_data])]
    if(check_str.empty):
       new_data = pd.DataFrame({"ID": [rcv_data], "exsistence": [True]})
       df = pd.concat([df, new_data], ignore_index=True)
       print("ID: " + rcv_data + "をデータベースに登録しました。")
   elif(check_str.iloc[0]["exsistence"] == True):
       df.loc[df["ID"] == rcv_data, "exsistence"] = False
       print("ID: " + rcv_data + "を貸し出しました。")
```

RFID_system

Index.html

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
   <meta charset="UTF-8">
    <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-</pre>
scale=1.0">
   <title>在庫管理</title>
   <link rel="stylesheet" href="style.css">
   <script>
       // 5秒ごとにページをリロード(表の更新のため)
       setTimeout(function() {
           window.location.reload();
       }, 5000);
   </script>
</head>
<body>
   <div class="container">
       <h1>倉庫管理システム</h1>
       {{ table | safe }}
   </div>
</body>
</html>
```

32

さらなるシステム概要

- タイムスタンプの追加
- ・状態を比較して返却・貸出の出力
- 音声出力

RFID_system_voice

RFID.py

```
# 2. すべての exsistence を False に設定し、読み取ったデータを True に設定
   df['exsistence'] = False
   for rcv data in rcv data list:
       current time = datetime.now().strftime("%Y-%m-%d %H:%M:%S")
       check str = df[df["ID"].isin([rcv data])]
       if check str.empty:
          # 新しいタグの場合、True に設定して追加
          new data = pd.DataFrame({
              "ID": [rcv_data],
              "exsistence": [True],
              "previous_exsistence": [False], # 初期値は_False
              "timestamp": [current time]
          df = pd.concat([df, new_data], ignore_index=True)
          print("ID: " + rcv data + " をデータベースに登録しました (時間: " + current time + ")。
          # 既存のタグの場合、True に設定
          df.loc[df["ID"] == rcv data, ["exsistence", "timestamp"]] = [True, current time]
   # 3. previous exsistence と exsistence を比較して、状態が変わった場合に音声で通知
   for index, row in df.iterrows():
       if row['previous_exsistence'] == True and row['exsistence'] == False:
          print(f"ID: {row['ID']} を貸し出しました(時間:{row['timestamp']})。")
          speak(row['ID'][-4:] + "が貸し出しされました")
       elif row['previous exsistence'] == False and row['exsistence'] == True:
          print(f"ID: {row['ID']} を返却しました(時間:{row['timestamp']})。")
          speak(row['ID'][-4:] + "が返却されました")
```

さらなるシステム概要

- フロントエンドでの検索機能
- フロントエンドでの音声出力
- IDと商品名の連携などなど

まだまだできることはたくさんあります!

授業構成

- ➤RFID技術の基礎説明
- ▶RFIDタグとリーダーの操作
- ▶Pythonを用いたRFIDデータの取得と処理
- ▶バックエンドシステムの構築